

科目名	心理 コミュニケーション	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群	
			法律学科	□ 必修 ■ 選択
			学科	□ 必修 □ 選択
英文表記	Communication Psychology	開講年次	□ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年	
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中	
ふりがな	せと ひろし	実務家教員担当科目	修得単位	2単位
担当者名	瀬戸 泰	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用	
授業のテーマ	人は一人では生きていくことはできず、他者との意思疎通、すなわちコミュニケーションを図りながら生活を送っています。つまり社会生活を送る以上、他者とコミュニケーションを行う必要があり、それが社会の発展や喜びといった人間らしさを支えてきたとも考えられます。一方で、「あらゆる悩みは人間関係にある」ともいわれるように、私たちは対人関係やコミュニケーションについて悩むことも少なくありません。本授業では、このように私たちにとって恩恵をもたらすと同時に、苦悩の原因にもなり得る身近なコミュニケーションについて、心理学的な観点から学び、理解を深めていくことをテーマとします。			
到達目標	1. コミュニケーションに関する心理学的な理論や考え方を理解し、説明することができる。 2. 学習した内容を、自らのコミュニケーションや日常生活に当てはめて確認・考察できる。			
授業概要	座学を中心に、コミュニケーションに関する心理学的な内容を取り扱います。単に知識を紹介することにとどまらず、具体事例等を織り交ぜ、理論をいかに日常生活に活かしていくかという視点から授業を行います。			
授業計画				
第1回	イントロダクション	(授業の概要、コミュニケーションとは)		
第2回	非言語コミュニケーション	(身振り・手振り、目は心の窓、メラビアン の法則、パーソナルスペース)		
第3回	言語コミュニケーション	(分かるということ、言葉、チャック、文脈、比喩、エラー)		
第4回	人間関係論①	(対人認知と対人魅力)		
第5回	人間関係論②	(協調関係、援助行動、対人葛藤、囚人のジレンマ)		
第6回	人間関係論③	(対人不安とその背景、自尊感情、愛着、自己注目)		
第7回	人間関係論④	(組織・労働と人間関係)		
第8回	交流分析①	(エゴグラム、交流分析から見たコミュニケーション)		
第9回	交流分析②	(脚本分析、ストローク)		
第10回	傾聴スキルとアサーション	(傾聴とは、聴き方のポイント、言いたいことを伝える、ミニワーク)		
第11回	ソーシャルスキルトレーニング	(技術としてのコミュニケーション)		
第12回	承認欲求	〔認められたい〕の心理、マズローの欲求階層説、アドラー)		
第13回	悪意の心理学	(対人関係における苦悩、嘘、悪口、攻撃行動)		
第14回	コミュニケーションのバイアス	(認知バイアス、認知の歪み)		
第15回	現代社会とコミュニケーション	(メディア、ソーシャルネットワーク、多様性)		
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	学習内容の定着を図るため、毎回、復習を行うようにしてください(1時間程度)。授業で学んだことを、日々の経験や日常生活で意識的に当てはめ、考察・活用できるよう努めて下さい。			
履修条件 受講のルール	履修のための条件はありません。			
テキスト	毎回、講義用レジュメを配布します。			

参考文献・資料	藤田依久子 『新版 対人コミュニケーション入門』 (ナカニシヤ出版、2022)
成績評価の方法	試験 70%、毎回のコメントシート 30% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日・水曜日 10:30~12:00 ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	—
学生へのメッセージ	近年、就職活動や実際の仕事、その他様々な場面において、「コミュニケーション能力」が求められる傾向が見受けられます。その点からも、一度コミュニケーションに関する学問的な考え方の全体像を理解し、それを自分自身の日常生活に活かしていくことは有意義なことと思います。理論と実践を往復しつつ、学びを深めていただけたらと思います。